

参考様式A5(自己評価等関係)

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターらいむの丘			
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 14日 ~ 令和7年 11月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	128	(回答者数)	88
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 1日 ~ 令和7年 11月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	21
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 16日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの様子を捉えながら、日々の関わりやあそびの提供がで きている。 日頃から保護者と話す中で悩みを聞いたり子どもの成長をとも に喜ぶことができている。	子どもの気持ちに寄り添いながら、その子が分かるような声掛けや視覚支援を行っている。 園や家庭での様子を聞いたり、療育の様子を伝えたりする時間 を設け、保護者と気持ちを共有する機会を作っている。	子どもや保護者の様子を職員間で共有し、支援を継続していく。
2	職員間で話し合い（打合せ、振り返り、記録など）を毎回行つ ている。	職員間で意識して声を掛け合い、療育に関して毎回話し合う時 間を設けている。	今後も職員間の連携を図ることを強化し継続していく。
3	地域の関係機関（園・事業所など）に対して、地域支援・連携 を行っている。	関係機関に専門職を派遣し、発達相談や言語相談を行ってい る。 園・事業所向けの研修会を開催し、各機関が繋がれるような交 流の場を設けている。	今後もセンターとして関係機関とより連携、外部への情報発 信を強化し、地域全体の向上に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	対応の体制、窓口がわかりづらい。	どの職員にも相談していいという体制をとっているが、それが 保護者の方の分かりにくさにつながっていると考えられる。	各職員の役割がわかるよう、相談窓口の周知方法を工夫して いく。 相談内容に合わせて担当職員につなぐとともに、情報共有を していく。
2	マニュアル（災害、安全など）の周知ができていない。	職員全体で周知徹底する機会を設けていない。	目つきやすいところにマニュアルを掲示する。 職員研修で、事故発生を想定した訓練を充実させる。 保護者にも分かりやすく周知していく。
3	人員（保育士、児童指導員）が不足している。	配置基準は満たしているが、保育士・児童指導員が不足して いる。	募集をかけるとともに、職員にも紹介の声掛けを行ってい る。